

梅原の子

Umehara Elementary School
梅原小学校 学校だより
令和4年1月号



梅原小学校 創立150周年

オミクロン株による第6波の襲来とともに、3学期がスタートしました。梅原小の子どもたちは感染予防への備えを怠ることなく、健康な体に、絶えない笑顔で、これまでと変わりのない学校生活を創り上げています。冬休み中からこれまでのご家庭でのご指導に感謝申し上げます。

さて、令和4年は、梅原小学校創立150周年となる節目の年です。高富町史通史編（昭和55年4月15日発行）に、以下のような記述があります。

明治5年11月梅原村国定寺を仮校舎にあて、村内の僧が修身・読書・習字の3科目を指導したのはじめて、生徒約70人を戸長若井平左衛門が監督し約120円を教育費に充てた。翌6年5月、梅林寺跡に移った。この寺は加茂神社の別当職であったが、維新後廃寺となっていた。校名は文友舎で、戸長は前年と同じで、幹事は土井菊右衛門、教員は伏島頼之・土岐禅亮・宮部与吉であった。（中略）明治12年旧校舎を売り、大桑村から芝居小屋を買って180円余で建築した。落成式には県令（今の県知事）小崎利準が臨席した。

明治42年はじめて6年までそろい、全校児童179人、うち男98、女81人となった。かくて校舎の増改築をはじめ翌43年7月3日落成した。明治45年7月13日、梅花の中に原の文字をかいた校章を決めた。

昭和30年町村合併により高富町立となる。
昭和36年従来への石の門柱を東光寺へ寄付し、大谷石を組合わせて校門とした。
昭和47年には校歌を制定した。（創立100周年）

普段目にする校章や校門、口にする校歌からその歴史に思いを馳せることは、こうした機会がないとなかなかできません。梅原小学校創立から今に至る150年の間にかかわってくださった多くの皆様の志や情熱を、子どもたちと一緒に想像し、これからの梅原小学校を、夢いっぱい思い描いていきたいと思えます。その材料となるものが、校内にはいろいろあります。校長室廊下には、大正6年度から現在までの卒業記念学級写真が掲示されています。校長室には、初代校長土本作治郎先生の書とされる掛け軸があります。図書室には、地域の皆様から寄贈いただいた昔の教科書や学習、生活用品が並んでいます。グラウンドには、昭和8年にご寄附いただいた二宮尊徳石像があります。創立100周年の記念に建てられた土本校長記念碑があります。こうした財産を見つめ、見直し、梅原の子としての自信と誇りを育む機会となる活動を位置づけていくつもりです。

人の思いが人を動かし、人々のかかわり合いによって歴史がつくられます。50年後、100年後の梅原の人々に、私たちの思いが伝わる足跡を残そうとする意志をもって、梅原小学校の新たな歴史となる日々の営みを大切に参ります。

